

保育総合研究会 臨時

News

VOL.4 2020.6.10

発行人 保育総合研究会 会長 栢沢 幸苗

発行元 事務局長 社会福祉法人 東明会

飯沼こども園 理事長 東ヶ崎静仁

〒311-3153 茨城県東茨城郡茨城町上飯沼 1276-1

029-292-6868 Fax 029-292-3831

E-mail iinuma-n@ans.co.jp

全国会員数 97名

保育総合研究会の皆様お元気でしょうか？いよいよ保総研もなんと zoom 会議開始しました。

【三役・事務局会議】 第1回 zoom 会議 平成2年6月1日(月)13:00-14:30 に開催

議案 第1号議案 定例会開催について（実施する場合、日時・場所等）

第2号議案 プロポジション委員会の進め方について

第3号議案 その他

1.閉会 栢沢会長 伊東副会長 森田副会長 田和副会長 坂崎副会長

東ヶ崎事務局長 菊地事務局次長 永田事務局員(8名)

2.会長挨拶 栢沢会長 3.参加者より一言

4.第1号議案 次期定例会開催 2020.9/1-2 第67回定例会 名古屋市東海学園大学開催中止決定

本年度は9月末まで、役員会及び定例会等を中止し、今後については、再度、三役事務局会議で検討します。

5. 第2号議案 7プロポジション委員会「2040年を見据えた 保育内容と制度の提言」開始します

今後の進め方について⇒内容を会長等検討後

6月中に3委員会委員の承諾をいただく⇒東ヶ崎事務局長より各委員に連絡がいきます。

7月に各委員会を対象にzoom研修及び会議等進めていきます。

※これらについて各委員は近いうちにメールが参ります。よろしくお願いします。

6. 第3号議案 その他 ・「20周年記念誌編集部」 担当責任者/椋沢 部長/遠藤 浩平

副部長/坂崎 田和 永田 部員/塩坂 百瀬 土山 福沢 只野 筒井 事務局/東ヶ崎 菊地

- ・保総研による「新型コロナ・ウィルス感染における保育施設アンケート」⇒HPにアップします。回答について もHP上で、応えていただいて集計します。アンケートは10日間程度(6/17)で締めて結果をまとめたいと思います。メール FAX 等は回答が重複する可能性がありますので**今回はHPのみの回答**をいただきたいと思います。ご了解ください。

- ・永田氏提供資料配布して意見交換⇒広報誌に載せます

7.閉会 ※その他 三役事務局会議を7月より一か月に1回開催することとした。

次回は**第2回会議を7/1の13-15時**に行うことになりました。



☆2020年 令和2年度定例会等事業予定

定例会・保育科学等、コロナ感染によって延期・中止となっています。大変残念ですが、一方 zoom 会議をはじめ
今後は研修・会議をオンライン上で進めてまいりたいと思います。何卒よろしくお願いします。

2020.9/1-2 第67回定例会 名古屋市 東海学園大学 中止となりました

☆今回の情報提供 P1-2【三役・事務局会議】 第1回 zoom 会議

- ・7 プロポジション委員会「2040年を見据えた 保育内容と制度の提言」⇒委員の方々にメールが行く予定
- ・「新型コロナ・ウィルス感染における保育施設アンケート」⇒**ホームページでの回答**をお願いします。

P4-5・『保総研の歴史 No.3 & 4』今さらながら どうして **サポートブック前夜&九州軍団のこと**

P5-6・『文科省5月25日付の学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル「学校の新しい生活様式」

P7-9・『スタンフォード大学心理学部附属の保育施設研究』

- ・保総研20周年記念アメリカ視察研修 カリフォルニア スタンフォード大学 保育施設資料

P10・茨城県の萱場さんからメール来ました。読んでジーンと来ました。

編集誤記

◆お詫び◆ 遅くなりましたが、次回発行はいよいよ「7プロポジション」の委員発表、進め方も説明します。

『保総研の歴史 No.3』 今さらながら どうして 『サポートブックの前夜』

Japan

Association of

機関

Multidisciplinary Research for

多領域の研究

Early Childhood Care and

Education

保総研と言えば、青色表紙の「サポートブックI」は記念的、代表的冊子です。

一応 10 万部と言っていますが、保育雑誌は 1 万分も売れば大ヒットですが、たぶん 8 万部くらいは売れたと思いますので、場外ホームラン並みだったと思います。この背景には、平成 20 年度より施行された保育指針の改定があり、なんといっても梶沢会長が保育指針の国の委員になったことは大きなことでした。それも保育総合研究会会長の名前で参画しましたから、それは大変なものでした。又、当時の義本保育保育課長の

後押しもあり、保育士から初めて専門官になった天野珠路先生（現鶴見大学短期大学部教授）や食育のエキスパート酒井先生（現東京家政学院大学教授）らが指導してくれたことは保総研として文章の真偽として、とても役立ちました。時はあたかも「保育課程（天野さんが作った造語）の編成」という新たなものに取り組むものでした。それを初めて示したのは保育総合研究会でした。当然な事ながら文科省や厚労省がそれらを示すわけありませんからセンセーショナルだったと思われます。

今回の平成 30 年の新指針施行で「保育課程」が無くなりました。各要領・指針の整合性をとる中で造語の「保育課程」が無くなるのは仕方ないことですが、将来的には是非とも要領指針を一本化して、「乳幼児期の保育課程（現教育課程を含む）」を作成してもらい、その時も保総研でサポートブックを出してもらいたいと思います。これらの経験から、その後のサポートブックを文科省の湯川秀樹さん等多くの要領等の原案者との話し合いをするきっかけにもなりました。尚、以前にも書きましたが、サポートブックの命名は梶沢会長です。梶沢会長の八戸市に地震が夜にあって、電話をしましたが不通でした。その日の「真夜中の 3 時」に会長から電話がありました。私はソファにうたた寝をしていて、その電話でソファから落ちてしまいました。寝ぼけたまま、その電話の向こう側で会長は元気よく「今回の本の名前サポートブックにしよう。」と。忘れちゃだめだと思って電話をくれたようですが。まだその時は一文字も書かれていなかったのですが。ついでに毎度ながら本の推薦者も書く前から決まっていますから何とも凄いです。

『保総研の歴史 No.4』 今さらながら どうして 『保総研 九州支部のこと』

Japan

Association of

機関

Multidisciplinary Research for

多領域の研究

Early Childhood Care and

Education

保総研は栴沢会長の青森や東ヶ崎事務局長の茨城など会員が多い訳ですが、実は人数的には九州・沖縄が会員が多いのは皆さんもご存じだと思います。今回は九州・沖縄軍団の皆様のことを勝手に坂崎が書きます。(紹介できない人は本当にごめんなさいね) まずは大分軍団です。大分はジャミーズ委員長の高月さんや今年の保育科学の代表者である岩橋さんらが活躍なされています。高月家の高月ママと福沢先生は、うら若き頃、一緒にヨーロッパ研修にいらしている中です。(ちなみに福岡から来ている守先生も栴

沢会長と若かりし頃ヨーロッパに行って一緒に部屋だったようです。)岩橋さんたちは、大分日田軍団ですが、西田先生、佐藤先生らが、保総研の道を開いてくれました。大分の良いところなんだと何回も思いました。

さて次はなんといっても一大勢力の熊本軍団です。もちろん吉本先生と東ヶ崎事務局長の関係もありますが、当会監事の本田先生のことを少し。私を九州で最初に講演に招いてくれたのが本田先生でした。もう 25 年も前の事です。熊本への飛行機が欠航をし、福岡に飛んだ私を福岡空港まで迎えに来てくれました、昨日の事のように。明治維新時、青森を作ったのは熊本と会津の人たちでした。本田先生のような人たちなんだろうとその男気に感激しました。その後、古川・松永・矢野先生らの才能のある方たちに会うことが出来ました。もちろん人吉の平山先生ら、現在の 2 世軍団にもその片鱗が見られ、本当に嬉しく思うと同時に今後の保総研を是非とも背負って行ってもらいたいと思います。

さて最後に沖縄です。沖縄は日保協で活躍なさっていた金城先生たちとの付き合いを初め現在の阿嘉先生につながっています。実は沖縄は長い間、幼稚園 5 歳児、4 歳時以下が保育所、又多くは無認可保育所でした。新制度時前には保育所に 5 歳児を、そして新制度制定時には認可園の制度、そして無認可から認可へをなんとか風穴をあけられないかと動きました。実際には、裏で新たな制度構築に尽力してく

ださった沖縄の某政治家・そして現某官僚の皆様のお蔭でした。そのうち名前を書いても良い時が来るような気がします。今更ながら深く感謝します。それにしても九州さすがに熱いんだろうな。そして今後もご縁を大切にしようと思います。では又。

今後の新型コロナウイルス感染症対策について現状、文科省から幼稚園の部門及び懸念することなどに載せておきます。(提供永田)

【第5章 幼稚園において特に留意すべき事項について】 下記は情報提供

文科省より5月25日付の学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」

幼稚園においては、前章までに述べた感染症対策を参照するとともに、幼児特有の事情を考慮し、以下の事項に留意します。

1. 幼児期は身体諸機能が発達していくとともに、依存から自立へと向かう時期であることから、

- ・ 幼児が自ら正しいマスクの着用、適切な手洗いの実施、物品の衛生的な取扱い等の基本的な衛生対策を十分に行うことは難しいため、大人が援助や配慮をするとともに、幼児自身が自分でできるようになっていくために十分な時間を確保すること。なお、幼児については、マスク着用によって息苦しくないかどうかについて、教職員及び保護者は十分に注意すること。
- ・ 幼児期は教えられて身に付く時期ではないことから、幼児が感染症予防の必要性を理解できるよう説明を工夫すること。等の配慮等が考えられます。

2. 幼稚園は遊びを通しての総合的な指導を行っており、他の幼児との接触や遊具等の共有等が生じやすいことから、

- ・ 幼稚園教育では、幼児の興味や関心に応じた遊びを重視しているが、感染リスクを踏まえ、幼児が遊びたくなる拠点の分散、幼児同士が向かい合わないような遊具等の配置の工夫や教師の援助を行うこと。
- ・ 時間割がなく、幼児が主体的に様々な場所で活動している実態を踏まえ、適時、手洗いや手指の消毒ができるよう配慮すること。
- ・ 幼児が遊びを楽しみつつも、接触等を減らすことができるよう、遊び方を工夫すること。
- ・ 幼児が歌を歌う際にはできる限り一人一人の間隔を空け、人がいる方向に口が向かないようにすること。等の指導上の工夫・配

慮等が考えられます。

3. 登降園の送り迎えは、保護者同士が密接とならないように配慮するとともに、教職員と保護者間の連絡事項は掲示板を活用するなどして会話を減らす工夫をします。

【その他】 今後の新型コロナウイルス感染症対策について⇒保育のきちんとしたガイドラインが必要であり、今後検討事項

1. マスクについて

園児との保育の中で、今後も保育士たちはマスクを常時着用するのか？

乳児との触れ合いにマスクは無い方が良いと考える。

また、「幼児においてはマスクが息苦しくないか教職員および保護者は十分に注意すること」と示されているが、園児（特に2歳児程度）がマスクをしてきた場合に熱中症対策をどのように行うのか？など別の基準が必要でないか。

2. 消毒について

次亜塩素酸ナトリウム溶液 0.05%とかなりの濃度での指定だが、厳しい使用時の注意が記されているものを、乳児などはおもちゃや備品を口にしたりする可能性が高い保育園等でも、本当にこの濃度をスタンダードとするのか？

3. 発熱等の風邪症状がある場合等には登校しないことの徹底

保育園等でも同じ扱いとなるのか？

4. 「密閉」の回避（換気の徹底）

夏のエアコンでの温度管理と換気という矛盾について、どのように整合させるのか？

「エアコンの使用時においても換気は必要です」などという曖昧な文章ではなく、具体的に示さないと園児の生活環境を整えられない。

5. 密集の回避（身体的距離の確保）

「1mを目安に、学級内で最大限の間隔を取るよう」というのは、文科省だからこその条件でしょうが、保育施設等は どのように対

応すれば良いのか？

6. 医療的ケアを必要とする基礎疾患のある園児への対応を明確に
7. 義務である健康診断の初回は、6月末までに行う必要はないとの特例は、保育園等でも同様か？

必見ですよ『スタンフォード大学心理学部付属の保育施設『ビング保育園』における研究』

(保総研 20 周年記念アメリカ視察研修 カリフォルニア スタンフォード大学 保育施設資料より)

「数学を苦痛ではなく遊び心のあるものにする」 (訳:小関沙耶)

全国民とジェフ・ベズスが絶賛するシンガポールの数学があります。具体的な体験学習から始まり、絵画的な授業、そして抽象的な授業へと進みます。世界の数学の成績ランキングでは、この方法が導入されて以来、シンガポールは世界で最も高いか、それに近い成績を収めています。マヤの数学もあります。古代のグリッドカウントシステムは非常に洗練されており、マヤ人が世界で最も高度な数学者や天文学者になるのに役立ちました。しかし、それは非常にシンプルで、幼稚園で学ぶことができます。デボラ・スティベック博士は、「遊び心のある算数」を、幼い子どもたちに教えることの重要性に焦点を当てました。

まず、早い時期から算数を学ぶことは脳に良いと言います。3歳から5歳の間に、実行機能を司る前頭前野葉の脳の発達が大きく加速します。そのため、この時期には、算数の活動に参加することで、脳の構造が成長する可能性があるのです。

第二に、若いうちに数学を学ぶことは、学問的に成功する可能性を高めます。幼稚園に入ってからスキルは、おそらく

何年も後の中学 2 年生のスキルを予測していることが判明しました。もしあなたが幼稚園の段階で遅れをとっているなら、高校を卒業できる可能性が低く、大学に行く可能性はさらに低いということです。

最初から正しい道に進むための鍵は、「子ども中心の」数学学習と「教師主導の」数学学習をブレンドすることにあるようです。例えば、シャワーカーテンを使って、カテゴリイズ、足し算、引き算を教えます。カーテンを格子に分割し、学生に靴を脱ぎ、並べ替え、それらを数えるように求めます。教師側がただ与えるだけのフラッシュカードを使った学習ではありません。子どもたちは数学の授業を受けているという意識を持たず、ただ「靴を使って何かをした」という感覚で数学を学ぶことができます。これが「遊び心のある」の数学学習です。負担になるようなことはありませんし、子どもたちが圧倒されて数学への不安を持つようなこともありません。ショッピングカートに入れたキウイを数える。おやつの中には、テーブルに何人の子どもがいるか、何枚のお皿が必要なのかを数える。このりんごの種は何個あるかな？どっちが多いかな？少ないかな？お皿はどんな形をしていて、他に教室にはどんな形があるかな？このようなことを考えることで、子どもの算数力を鍛えることができます。

遊びの時間は、数学を学ぶ多くの機会を与えてくれます。電車には何人の人が乗っているかな？何本の木や釘を使ったかな？と考えたり、どの本を読むか投票をして集計することもできます。また、子供が何本もの紙をテープで貼り合わせて、それを測りたいと言ったら、それも算数です

(今回訳してくれたのが、只野さんのこども園青森よつばの保育教諭の小関沙耶です。前職が英語の先生らしいのです。いろいろな人がいることはとても園としては良いことです。ついては、私の園の公開保育「数」の資料にもさせてもらい

ました。ありがとうございました。)

臨時編集誤記

茨城県の萱場です。臨時 News 楽しく拝読させて頂きました。しばらく会費のみの会員ですが、保総研の毎度高いレベルの情報、田舎に引きこもっている身としては、大変ありがたく思っております。

令和になって、災害が多く市行政との連携を強く求めたりしてましたらウイルス感染！！皆が経験してないことの対しての試行錯誤の対応に子どもの育ちや職員家族への配慮などなど…坂崎さんのおっしゃる通り。国関係へのプッシュをしていただき感謝しております。今期のコロナによる国の対応に、というか自治体行政の（我が市のことですが）、はっきりしない、御身大切な態度にほとんど嘆き激怒！不満不満でいっぱい。

ボヤキはさておき、今期の状況に嘆いてばかりではなく、状況を前向きにとらえ、自粛期間に煮詰まっているであろう家庭で楽しめる動画を配信したり、個々の家庭にちょっとだけ声掛け訪問したり、保護者と距離ができないような配慮を考え行っていました。変わる良いチャンスととらえて様々なことにトライしようと職員と話しております。保育園は人間形成の土台を培っているトテモトテモ重要な仕事、今こそ理解のない我が市の行政に。熱く訴える機会と思い、少し奮闘しています。保育園の頑張っている姿・素晴らしいところを広くアピールしたいですね。坂崎様のお手紙に思いつくまま書いてしまいました。（特に掲載していただくなんてことは、全く思っておりません。ちょっと人恋しくなっているのかも。）

萱場先生のメールももちろん掲載してもらいたいとは思いますが、載せました。

さていよいよ我が保総研も zoom 会議が始まりました。7月からは簡単な伝達研修等も進めてまいります。

東京等にはなかなか出かけられないけど、園にいてならば参加出来る人がいるとしたら、そういうことも研修の一環となりうるかもしれません。出来ることを少しでも進めてまいります。

是非とも坂崎にメールをくださいな。

この広報に対する内容については下記に電話等でご連絡を頂けると有難いです。

担当：〒039-4222 青森県下北郡東通村砂子又大字沢内 9-35

保育総合研究会 副会長 坂崎隆浩 携帯：090-6252-3699

メール/kodomoen.sakazaki@angel.ocn.ne.jp（こども園ひがしどおり FAX:0175-31-0203）